



経営分析 経過報告

令和6年7月22日

子ども家庭局

「ユーザー目線」と「創る改革」の関係図

ニーズ・課題の把握

受け手（市民等）のデータ・声

- ・想定する受け手の規模・今後の推移
- ・利用者の人数推移、属性・利用目的の
- ・利用者の声（施設・サービスの改善点等）

など

・少子化の概況
・保育所の入所状況
など、課題に紐づく現状

担い手（市等）のデータ・声

- ・サービス提供実績の推移
- ・施設の老朽化の状況 など
- ・従事する職員・供給事業者等の声
（サービス提供力を高める上での課題等）

など



改善・分析の実行（創る改革）

Aレベルの課題

現行業務を前提とした業務改善

↓

各部局において、個々に改善実行へ
※内容に応じ、局区共同で実施

B・Cレベルの課題・仮説

サービス提供主体・提供水準のあり方
施設運営形態・施設そのもののあり方
これまでのルールや制度枠組みの変更

↓

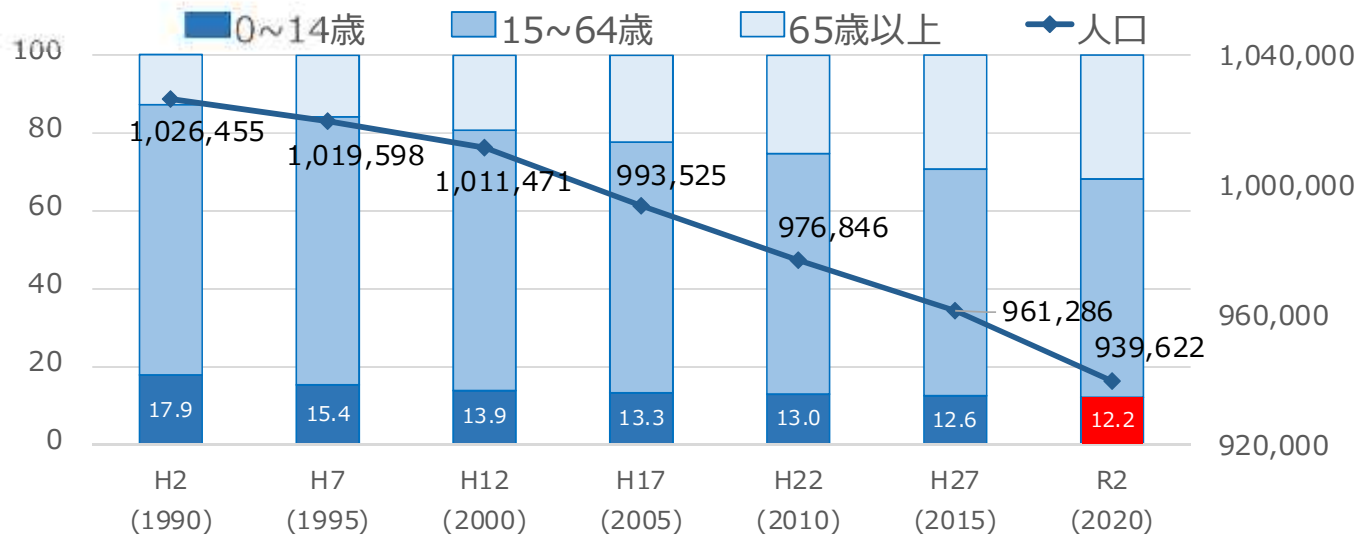
経営分析で仮説を検証（他都市比較等）
※分析のまとめり・体制は検討の状況に応じ調整

北九州市の人口割合及び出生数推移

未来のために、
今、ととのえよう。



☑人口割合



- 14歳以下の割合は **減少** 傾向
- H2→R2の30年で **約32%減**

☑出生数



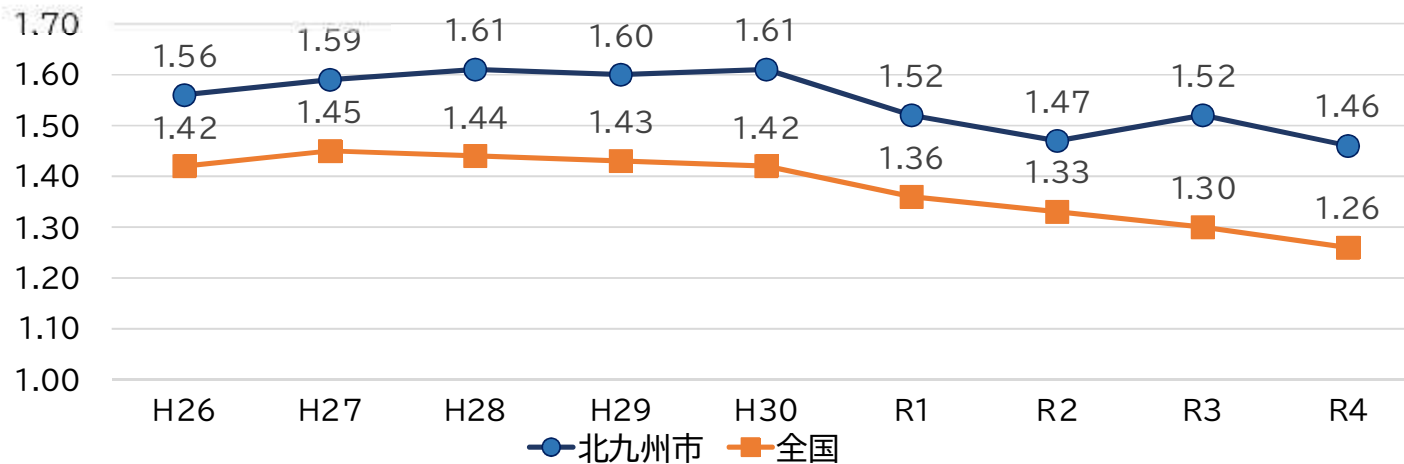
直近10年間の出生数の減
▲2,390人

全国・政令市と北九州市の合計特殊出生率

未来のために、
今、ととのえよう。

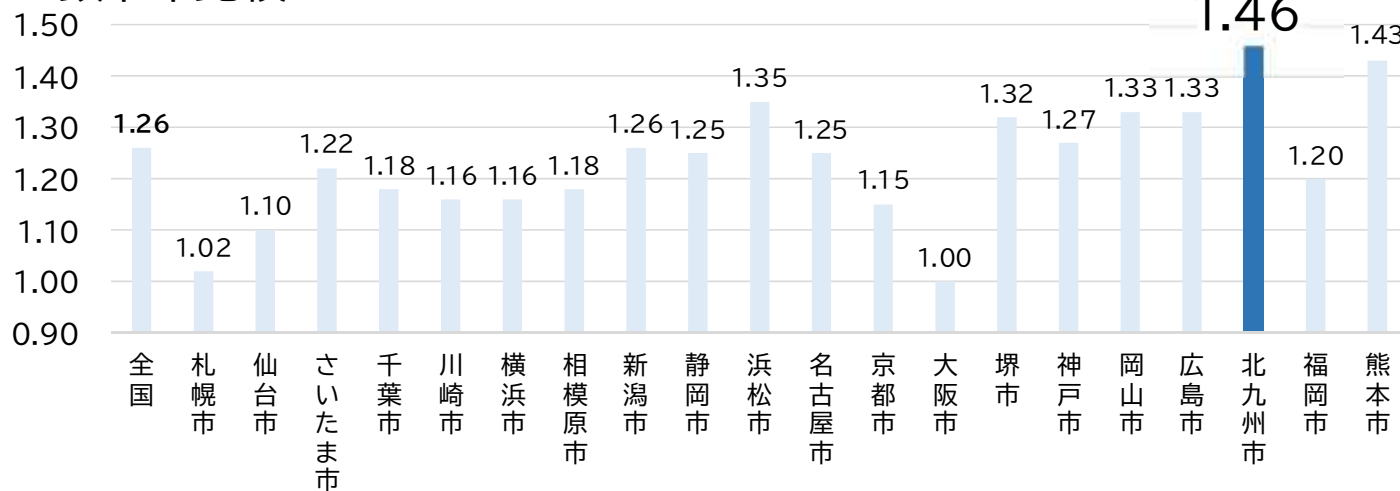


合計特殊出生率



全国平均よりも
高い合計特殊出生率

政令市比較



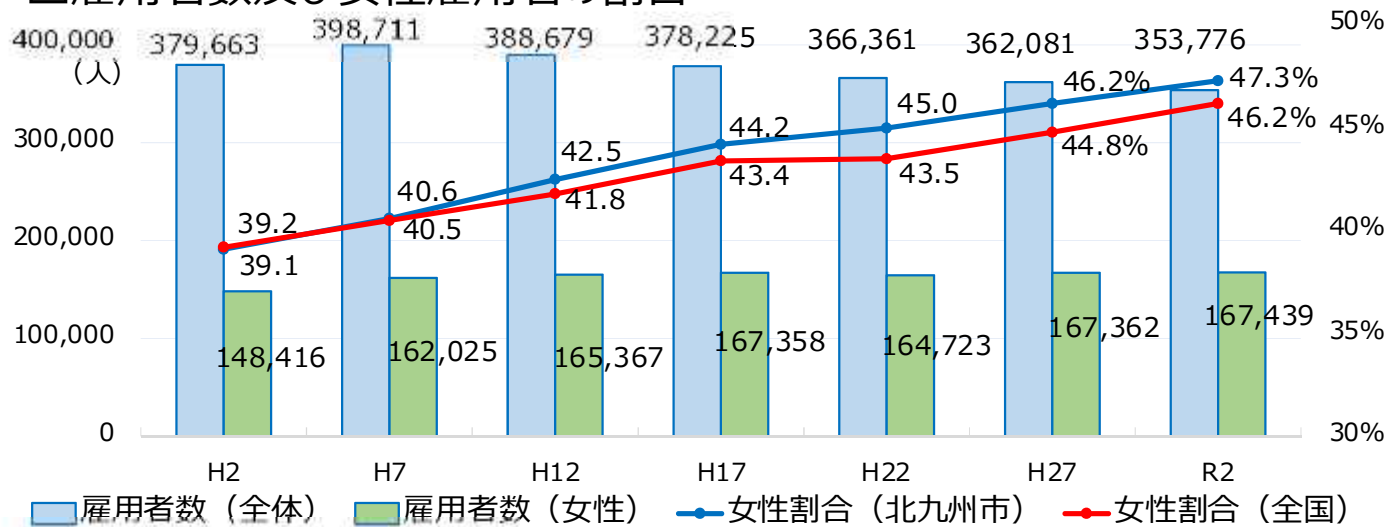
令和4年度 政令市中
第1位

雇用者数と市内保育所の入所児童数比較

未来のために、
今、ととのえよう。



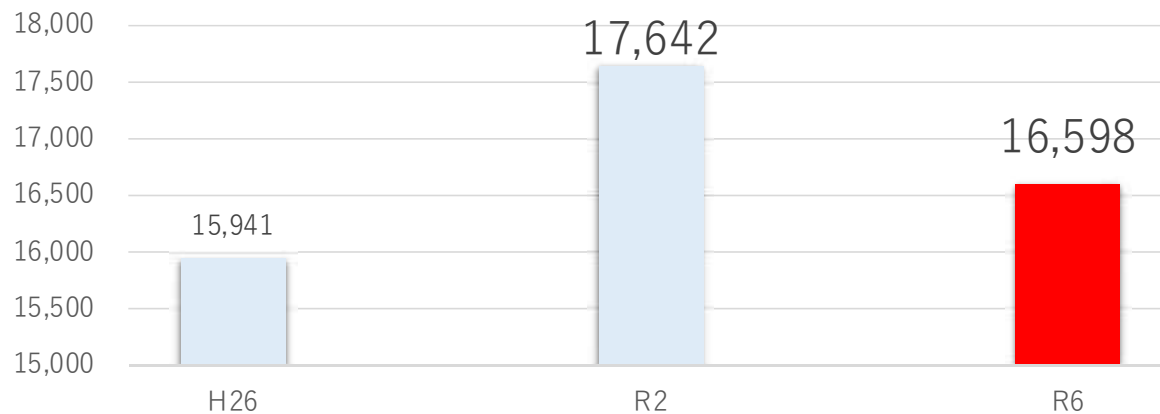
☑雇用者数及び女性雇用者の割合



- ・市内の働く女性の割合は **増加** 傾向だが、
- ・子ども、親世代の人口ともに

減少 傾向のため

☑保育所等入所児童数



- ・保育所等入所児童数は R2をピークに **減少** 傾向

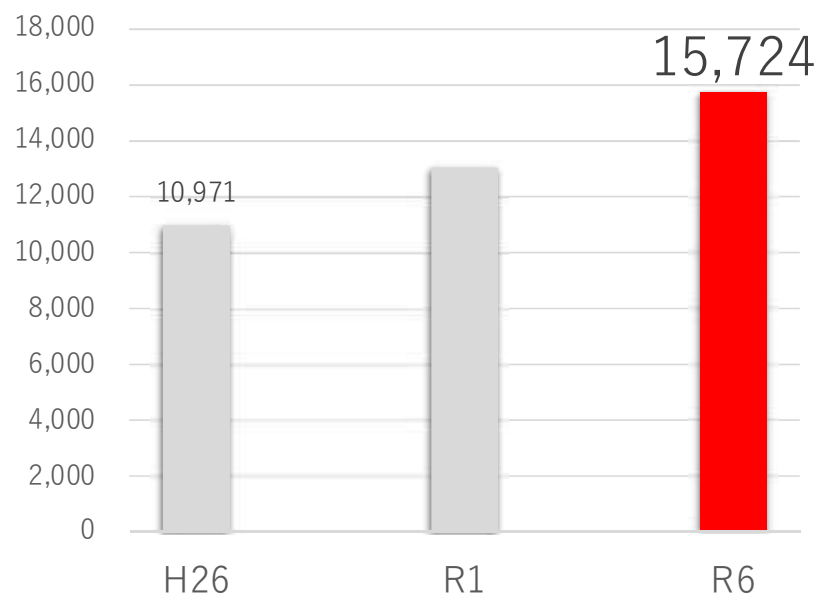
外国籍市民の推移及び障害児の保育所への受入状況

未来のために、
今、ととのえよう。

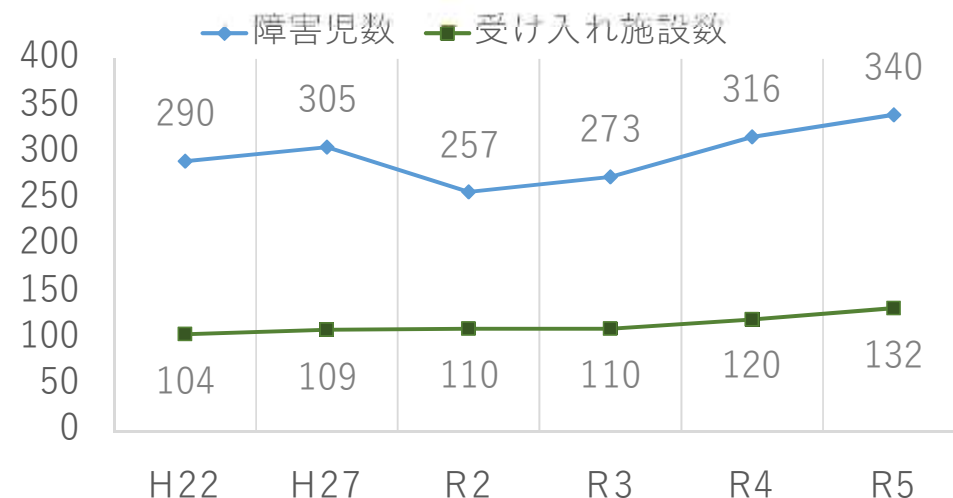


☑外国籍市民（住民登録者）数の推移

直近10年で、約 **1.5** 倍
保育所に入所する
外国籍の子どもも徐々に増加



☑障害児の増加と保育所の受け入れ状況



(参考) 直営保育所の医療的ケア児入所状況

H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
1人	3人	3人	2人	5人	4人	5人

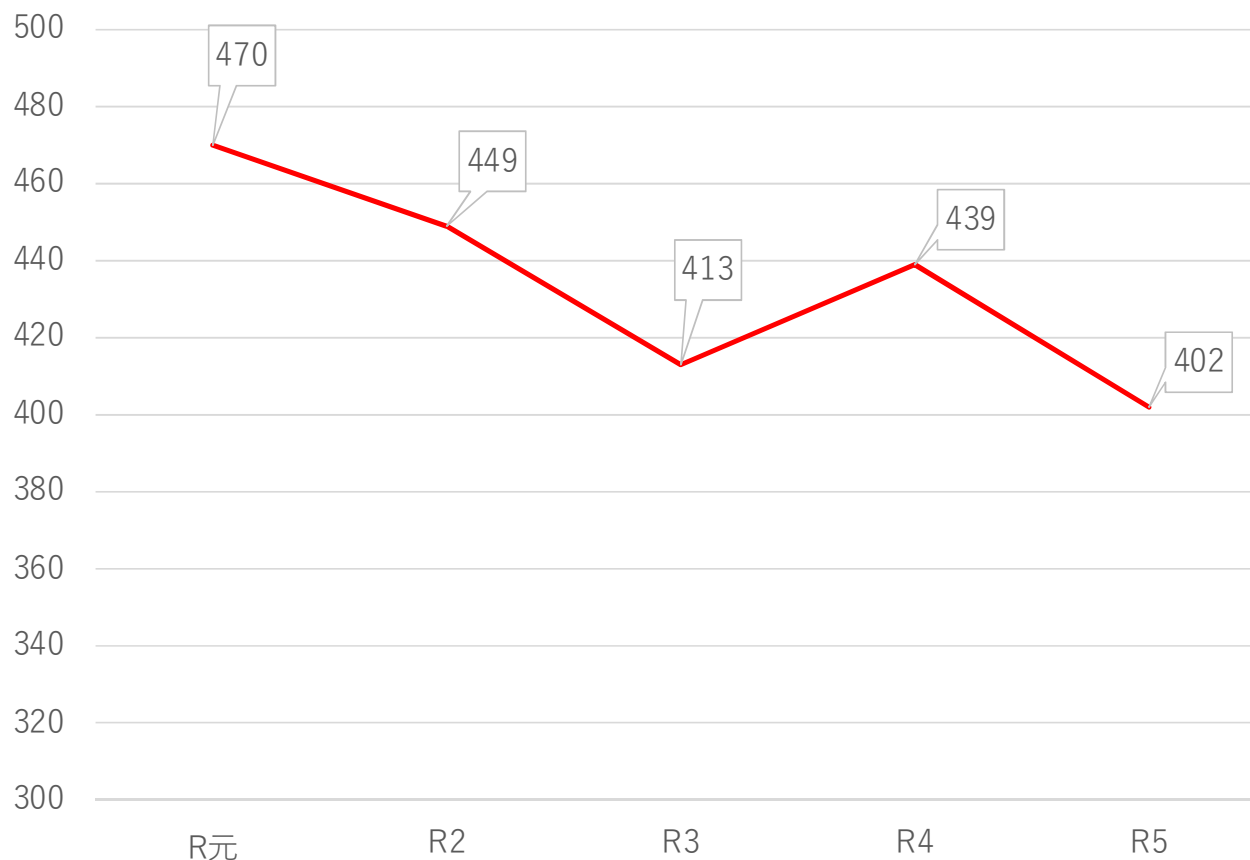
障害児・医療的ケア児も徐々に**増加**

保育人材の求人の状況

未来のために、
今、ととのえよう。



市内の保育士養成校(5校)卒業生数の推移



- 有効求人倍率 (全国)
保育士 **3.54** 倍
(全職種 1.35 倍)

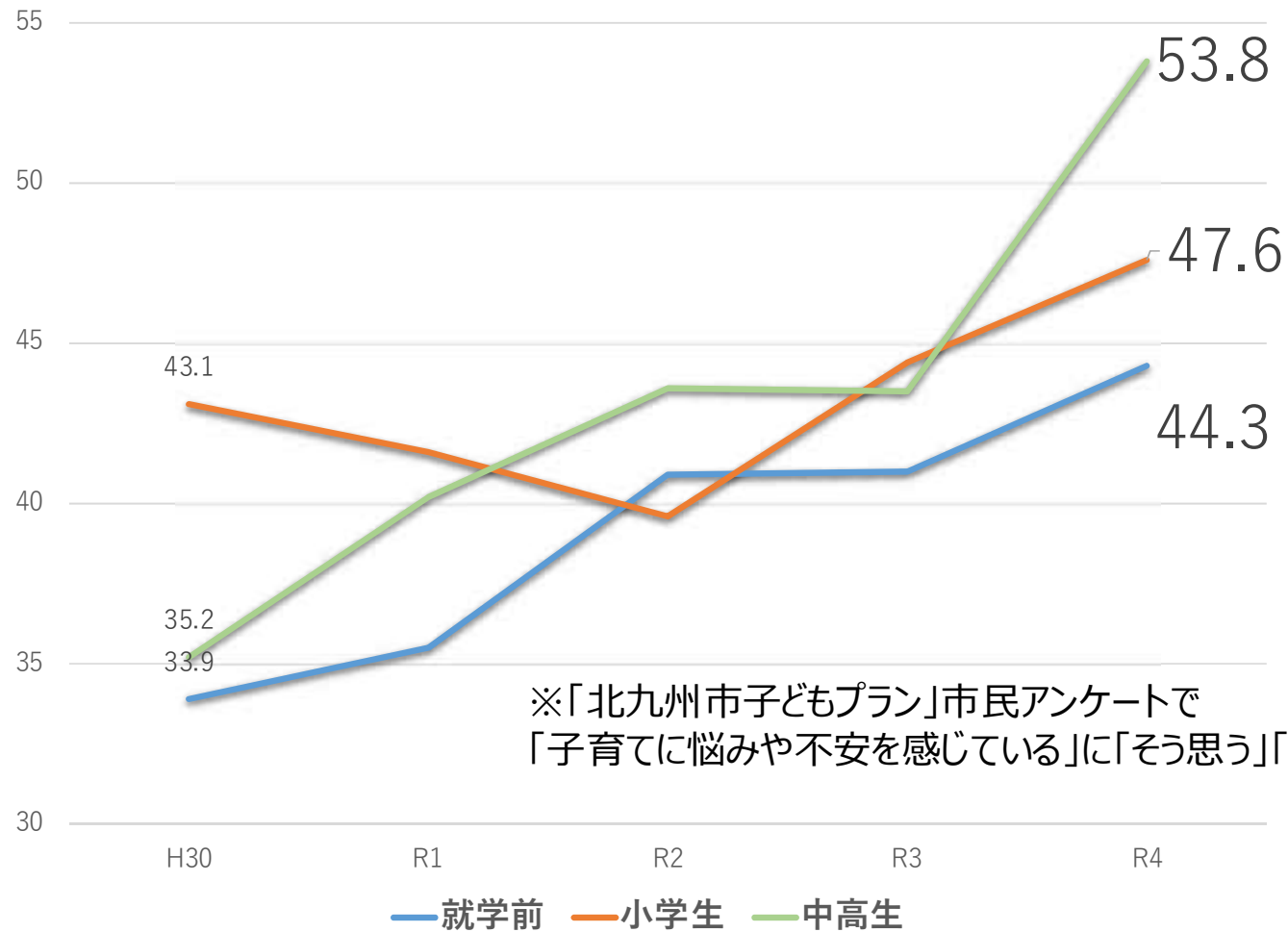
- 市内養成校の
学生数は**減少**

保育士不足

※今後の子どもの数の減少を踏まえた
保育人材の数の検証も必要

「子育てに悩みや不安を感じている」保護者の割合(市内)

未来のために、
今、ととのえよう。



子育てに悩みや不安を感じている保護者は
増加傾向

担い手側（市等）の状況

未来のために、
今、ととのえよう。

ニーズ・課題の把握

受け手（市民等）のデータ・声

- ・想定する受け手の規模・今後の推移
- ・利用者の人数推移、属性・利用目的の構成
- ・利用者の声（施設・サービスの改善点等）

など

担い手（市等）のデータ・声

- ・サービス提供実績の推移
- ・施設の老朽化の状況 など
- ・従事する職員・供給事業者等の声
（サービス提供力を高める上での課題等）

- ・子ども家庭局の予算
- ・直営保育所の概況
- ・各施設の老朽化の状況

など

課題の整理
仮説の導出

改善・分析の実行（創る改革）

Aレベルの課題

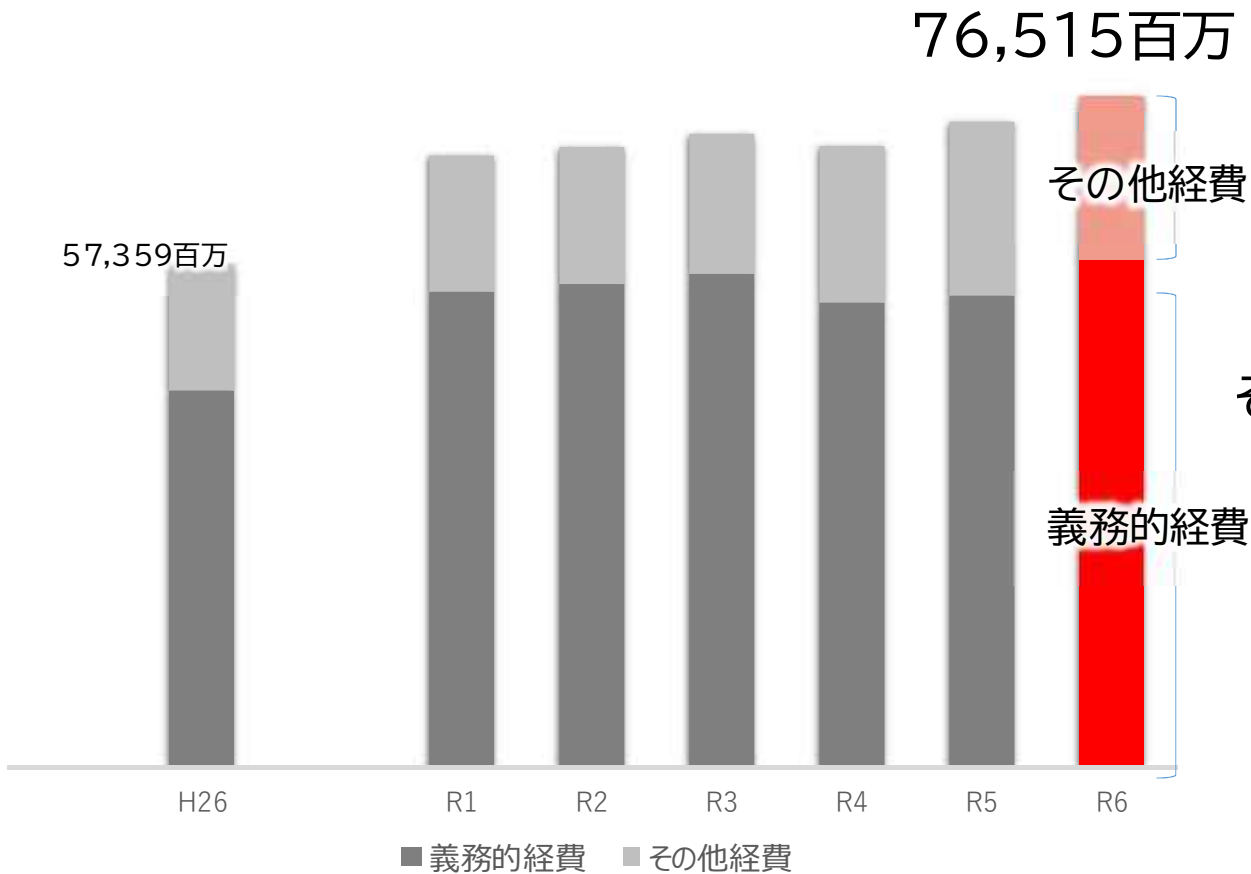
現行業務を前提とした業務改善
↓
各部署において、個々に改善実行へ
※内容に応じ、局区共同で実施

B・Cレベルの課題・仮説

サービス提供主体・提供水準のあり方
施設運営形態・施設そのもののあり方
これまでのルールや制度枠組みの変更
↓
経営分析で仮説を検証（他都市比較等）
※分析のまとめり・体制は検討の状況に応じ調整

子ども家庭局当初予算の推移

未来のために、
今、ととのえよう。



子ども家庭局当初予算は
10年前に比べ約**1.4倍**に増加
ただし、児童手当などの
義務的経費が**3/4**を占めている
その他経費も義務的性格の事業が多い

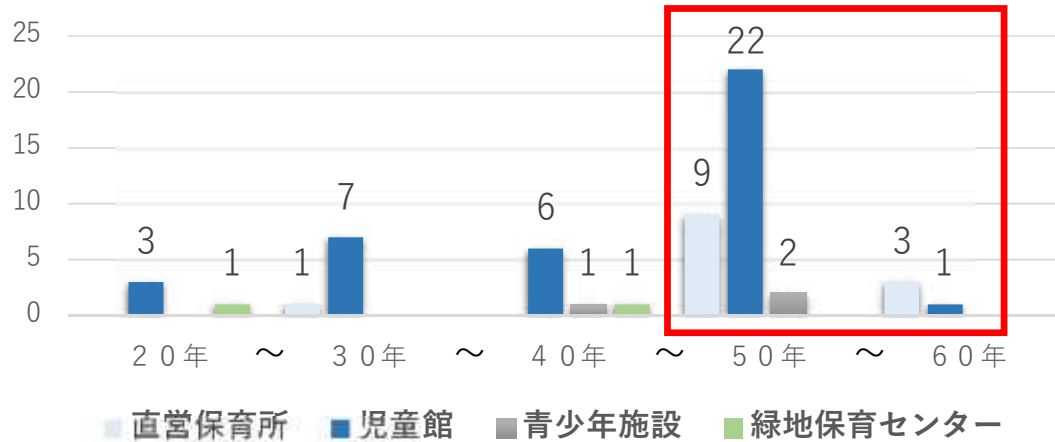
- その他経費
 - …施設整備費、子ども医療費
出産・子育て応援給付金など
- 義務的経費
 - …児童手当、児童扶養手当、
保育所などへの施設型給付など

子育て支援関連施設の老朽化の状況

未来のために、
今、ととのえよう。



☑子育て支援関連施設の築年数



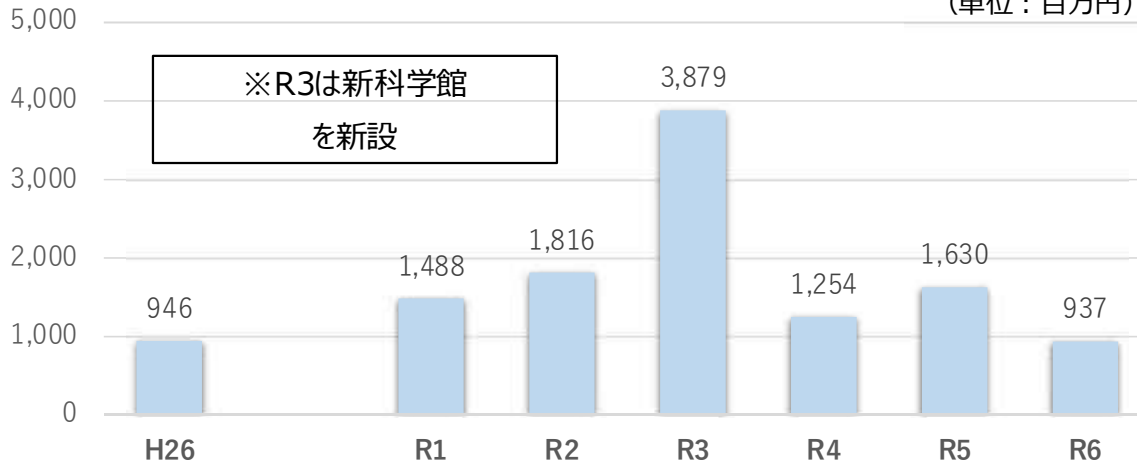
昭和40年代から
昭和50年代に集中的に施設整備

子育て支援関連施設は

老朽化が進んでいる

☑投資的経費推移

(単位：百万円)



直近10年間で大規模改修・新設等は
ほとんど実施せず。

実施すれば投資的経費が増大し

「その他経費」を**圧迫**する

直営保育所の政令市比較及び市内の直営保育所数

未来のために、
今、ととのえよう。



政令市施設数（R5.4.1時点）

No.	都市名	直営保育所	幼保連携型認定こども園	保育所型認定こども園	合計
1	名古屋市	87			87
2	広島市	86		1	87
3	新潟市	83		1	84
4	さいたま市	60			60
5	横浜市	58			58
6	千葉市	55		2	57
7	神戸市	56			56
8	大阪市	54			54
9	岡山市	34	20		54
10	静岡市		52		52
11	仙台市	32			32
12	相模原市	22	2		24
13	川崎市	21			21
14	浜松市	20			20
15	熊本市	19			19
16	札幌市	17	1		18
17	堺市		16		16
18	北九州市	14			14
19	京都市	13			13
20	福岡市	7			7

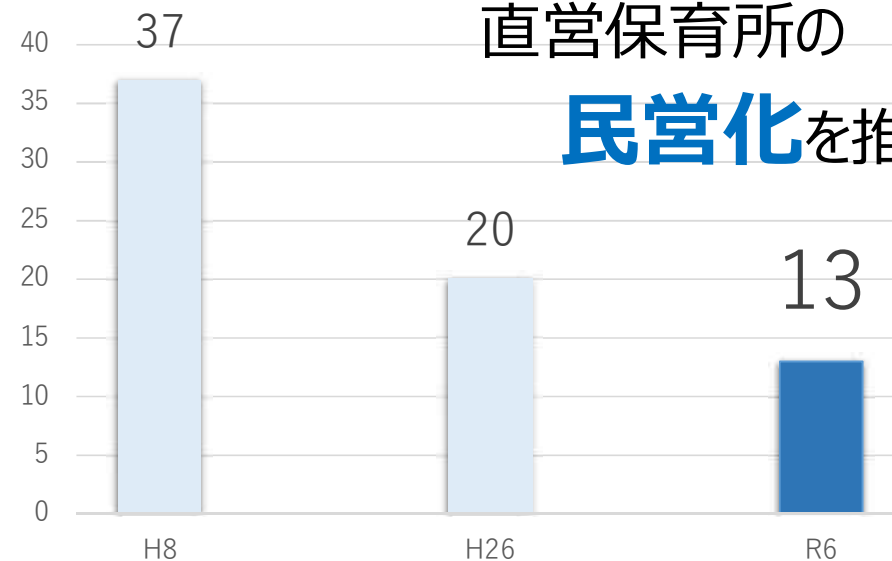
※最新の状況については調査中

北九州市の直営保育所数の推移

〔市内保育所:166か所※うち直営13か所〕
※保育所型認定こども園含む

これまでも計画的に
直営保育所の

民営化を推進



平成23年以降4月1日の**待機児童0**

児童館の政令市比較及び市内の施設利用者数

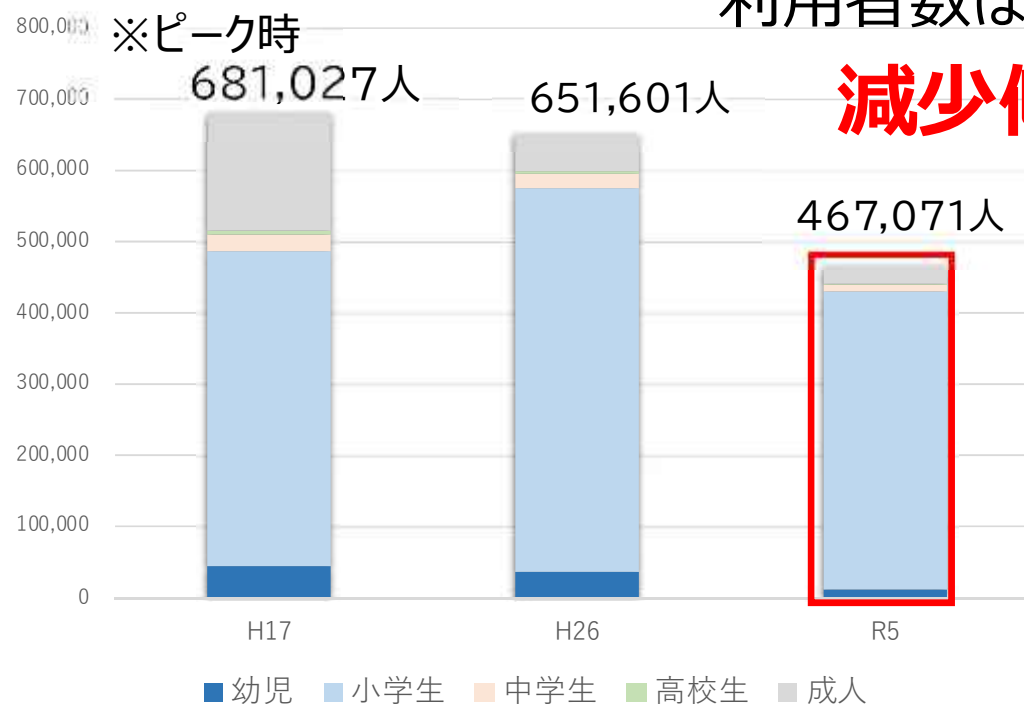
未来のために、
今、ととのえよう。



☑政令市運営状況（R4.4.1時点）

都市名	小型児童館	児童センター	その他	児童館合計	放課後児童クラブ実施
札幌市	0	109	90	199	95
仙台市	81	17	14	112	112
さいたま市	2	16	0	18	12
川崎市	59	0	0	59	0
相模原市	68	24	0	92	23
新潟市	10	3	0	13	4
静岡市	7	6	0	13	8
浜松市	4	0	0	4	0
名古屋市	0	17	0	17	14
京都市	129	0	0	129	59
大阪市	4	2	2	8	0
堺市	0	0	1	1	0
神戸市	66	52	0	118	109
岡山市	14	4	5	23	0
広島市	29	91	0	120	120
北九州市	39	0	0	39	29
福岡市	0	1	0	1	0
熊本市	3	8	0	11	0

☑施設利用状況



**小学生のうち約82%は
放課後児童クラブ利用者**

宿泊型青少年施設の政令市比較及び市内の施設利用者数

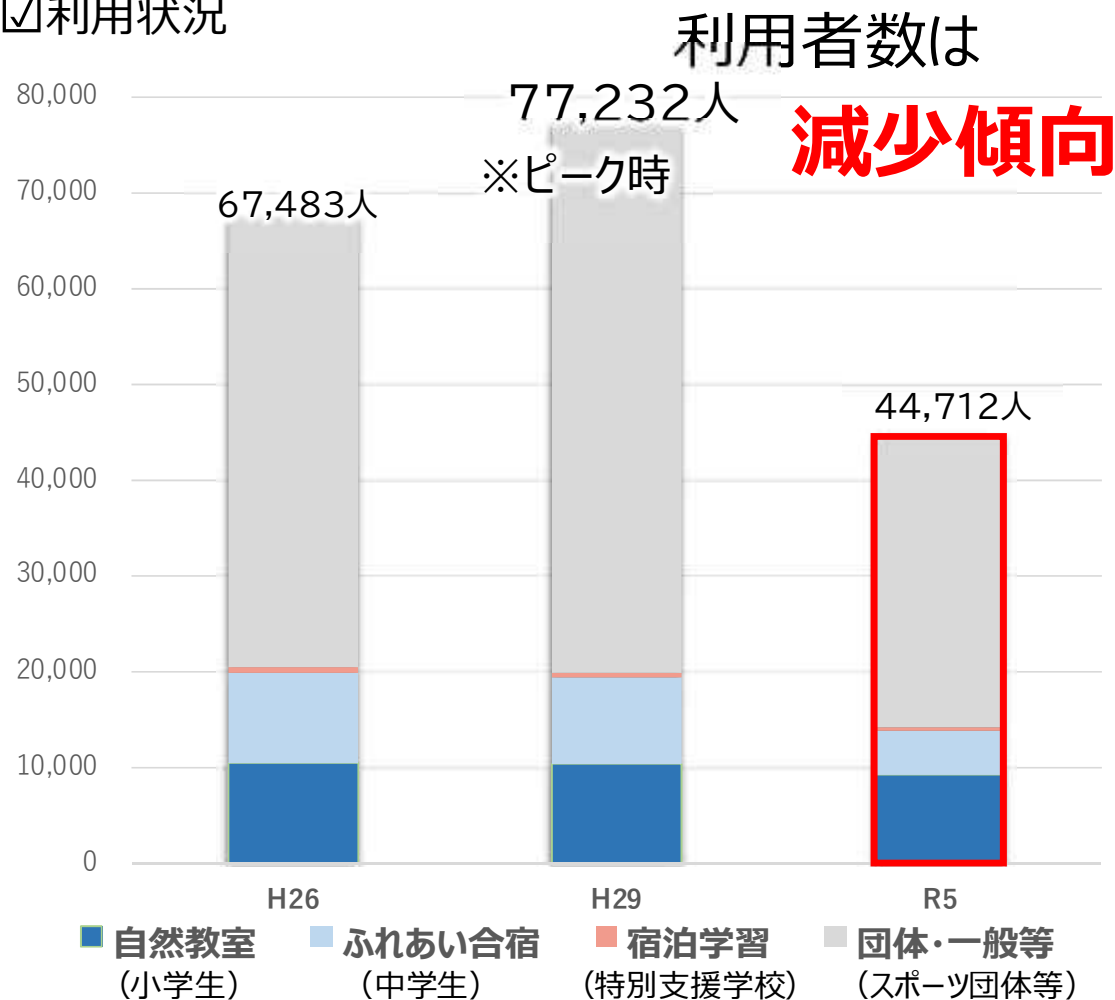
未来のために、
今、ととのえよう。



☑政令市施設数（R6.4.1時点）

都市名	施設数（収容人数）
札幌市	2施設（540人）
仙台市	1施設（310人）
さいたま市	1施設（560人）
千葉市	1施設（208人）
横浜市	2施設（592人）
川崎市	3施設（705人）
相模原市	2施設（400人）
新潟市	2施設（128人）
静岡市	2施設（296人）
浜松市	3施設（438人）
名古屋市	4施設（1704人）
京都市	1施設（238人）
大阪市	1施設（200人）
堺市	—
神戸市	1施設（108人）
岡山市	2施設（235人）
広島市	2施設（476人）
北九州市	3施設（652人）
福岡市	2施設（620人）
熊本市	1施設（※0人）

☑利用状況



未就学児専用の宿泊施設の政令市比較・利用者数

未来のために、
今、ととのえよう。



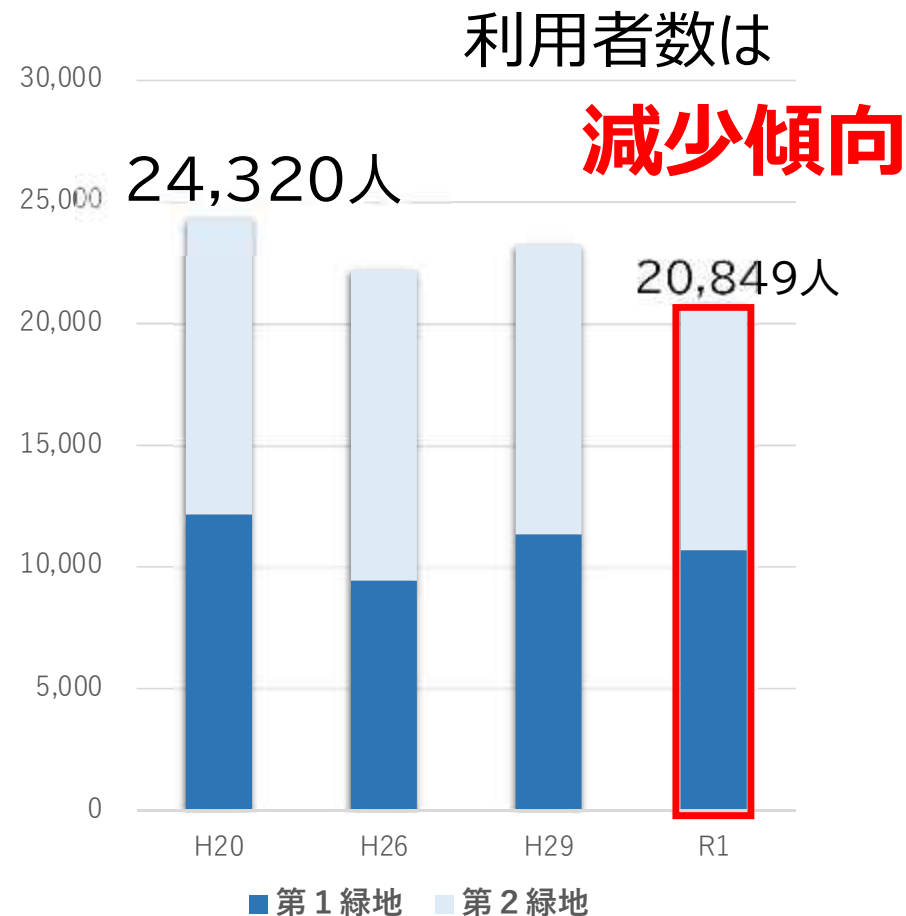
☑未就学児専用の宿泊施設（政令市比較）

(R5.4.1時点)

都市名	施設数	備考
札幌市		
仙台市		
さいたま市		
千葉市		
横浜市	1	民間所有
川崎市		
相模原市		
新潟市		
静岡市		
浜松市		
名古屋市		
京都市	1	民間所有（土地は市）
大阪市		
堺市		
神戸市		
岡山市		
広島市		
北九州市	2	市所有（指定管理）
福岡市		
熊本市	1	民間所有（土地は市）

※最新の状況については調査中

☑利用状況



受け手（市民）の声を受けた主にAレベルの課題

未来のために、
今、ととのえよう。

ニーズ・課題の把握

受け手（市民等）のデータ・声

- ・想定する受け手の規模・今後の推移
- ・利用者の人数推移、属性・利用目的の構成
- ・利用者の声（施設・サービスの改善点等）
など

担い手（市等）のデータ・声

- ・サービス提供実績の推移
- ・施設の老朽化の状況 など
- ・従事する職員・供給事業者等の声
（サービス提供力を高める上での課題等）
など

- ・利用者の声
- ・改善状況 など

課題の整理
仮説の導出

改善・分析の実行（創る改革）

Aレベルの課題

現行業務を前提とした業務改善
↓
各部署において、個々に改善実行へ
※内容に応じ、局区共同で実施

B・Cレベルの課題・仮説

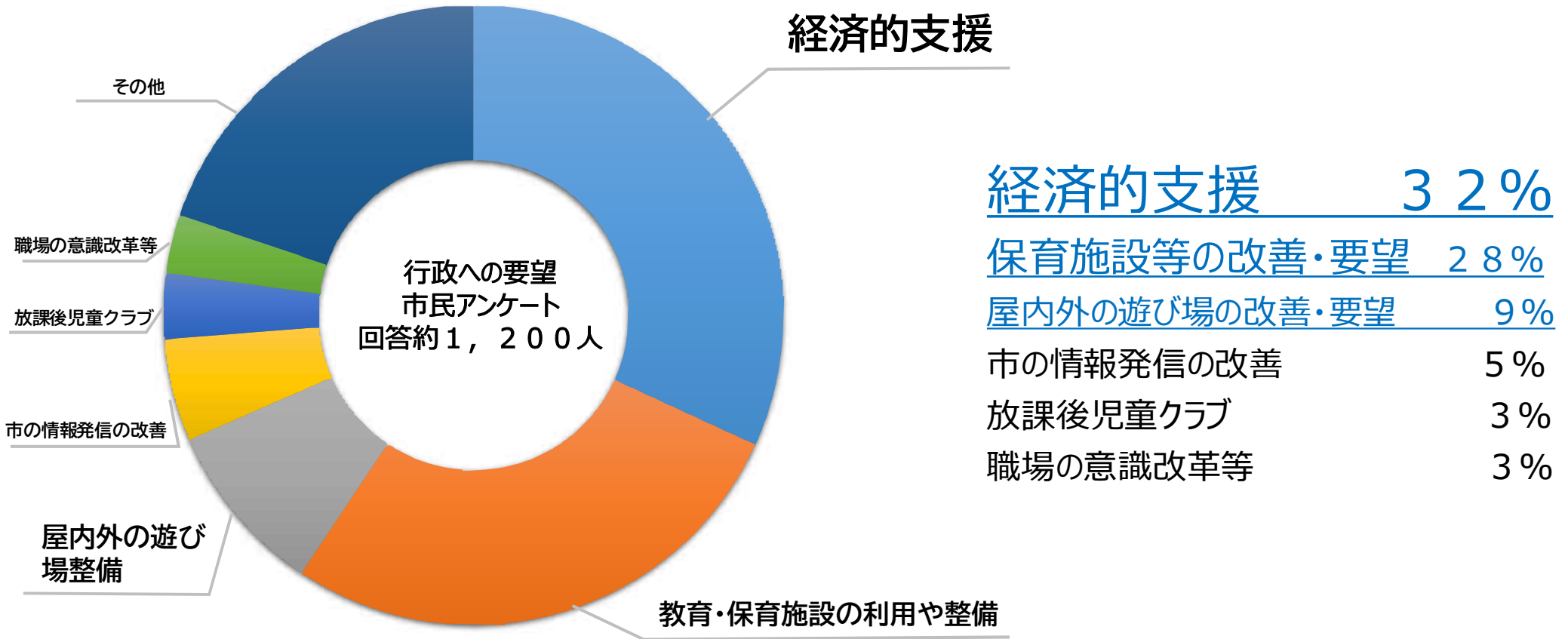
サービス提供主体・提供水準のあり方
施設運営形態・施設そのもののあり方
これまでのルールや制度枠組みの変更
↓
経営分析で仮説を検証（他都市比較等）
※分析のまとめり・体制は検討の状況に応じ調整

市民の声（アンケートの自由記述より）

未来のために、
今、ととのえよう。



「（仮称）次期子どもプラン」の策定にあたり、**R6年1月に市民アンケート**調査を実施。
そのうち、自由記述のあった**就学前児童の保護者（約1,200人）**の声の分析



アンケートの具体的な内容

未来のために、
今、ととのえよう。



※黄色のマーカー部分は前年度のアンケート等を受けてすでに実施・着手

☑ 経済的支援

- ・保育料が高い。幼稚園のプレ保育についても無償化してほしい。第一子、第二子関係なく保育料無償化してほしい。
- ・こどもの医療費が負担。18歳まで無償化してほしい。
- ・給食費を無料化してほしい。
- ・おむつを配布してもらえると助かる。
- ・ワクチン接種を毎年しておりインフルエンザワクチンの1人あたりの費用が高いため、助成をしてほしい。

☑ 保育施設等の改善・要望

- ・きょうだい児の育児休業中の保育所退所制度は廃止してほしい。
- ・きょうだい児の同時入所がなかなかできません。
- ・仕事が休みの日も保育園に預かってもらえるようにしてほしい。日、祝日の預け先をどうするか不安に思うことが多い。
- ・病児保育が無償化になってから、病児保育の予約がとれず利用できなかった。病児保育施設を増やした方がよいと思う。
- ・保育士をしています。自分の子どもが熱が出て休めない。
- ・各種手続きをオンラインでできるようにしていただきたい。役所へ出向くなど、小さい子がいるとハードルが高い。

☑ 屋内外の遊び場の改善・要望

- ・雨の日や寒い暑い日に子どもがのびのびと遊べる所が増えてほしい。
- ・野球、サッカー、バスケット、ローラースケートなど高学年の児童が体を使って遊べる公園がもっとたくさんあれば良い。
- ・民間が運営する子どもに特化した施設があればよい。

アンケートの具体的な内容

☑情報発信の改善

- ・地域の子育て支援やイベントなどの情報を知りたい。子育てに関する情報を一つにまとめて見やすくしてほしい。
- ・情報を得るためにHP等を確認しているが、更新されていない、検索しにくい等で情報を得づらい。

☑放課後児童クラブ

- ・児童館の情報が少なすぎる気がする。更新されていない児童館も多い。
- ・高学年になると学童を利用できなくなる所が多い現状を改善して欲しい。
- ・すべての学童を小学校の敷地内に作ってほしい。
- ・保育園の様に学童も7時30分から預けられるシステムが出来れば良いと思う。また、閉所時間が、各クラブによって異なるのを市全体で19時までに統一してほしい。
- ・学童を夏休みや冬休みだけなどの長期休暇中のみ利用できるようにしてほしい。
- ・春休みや夏休みの長期休暇には学童にお弁当を持参しなければならなかった。
- ・学童の時間に何か習い事の先生が学校に来てくれるなど教育支援があると面白い。

☑意識改革・その他

- ・子育ての悩みについて、どこに相談したらいいかわからない。
- ・習いごとへの送迎をサポートしてくれるサービスがあれば受けてみたい。子供もサッカーをしたいなどと言ってくるが、フルタイムで働いているので、習い事をさせることができない。
- ・父母と子供（複数）など、家族で参加できる野外体験などがあったら嬉しい。
- ・子供の病気の時も気がねなく仕事が休めるような社会になってほしい。
- ・企業の経営者や管理職世代の意識が前時代的で、子育てに理解がない。

今年度、既に改善に実施・着手したもの（Aレベル）

未来のために、
今、ととのえよう。



☑R5アンケートの市民の声を受けて改善に実施・着手したアクション

市民の声	改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだい児の育児休職中の保育所退所制度は廃止してほしい。 	<p>令和6年4月～希望すれば入所を継続（全市統一）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各種手続きをオンラインでできるようにしていただきたい。役所へ出向くなど、小さい子がいるとハードルが高い。 	<p>令和6年7月～入所手続きの完全オンライン化</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・春休みや夏休みの長期休暇には学童にお弁当を持参しなければならなかった。 	<p>令和6年7月 放課後児童クラブにおける長期休暇中の昼食提供をモデル実施</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・きょうだいの同時入所がなかなかできません。 	<p>令和6年9月～きょうだい児が同じ保育所に入所できるように優先度をアップ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・習いごとへの送迎をサポートしてくれるサービスがあれば受けたい。 ・子供もサッカーをしたいなどと言ってくるが、フルタイムで働いているので、習い事をさせることができない。 	<p>令和6年10月～「シン・子育てファミリー・サポート事業」保育所、幼稚園、放課後児童クラブ等の開始前後の送迎や預かりなどの支援を強化</p>

市民の声に対する改善策（Aレベル）

未来のために、
今、ととのえよう。



☑R6のアンケートを踏まえて新たに改善に着手するアクション

市民の声	改善策
子育てに関する情報がわかりづらい。必要な情報にアクセスしにくい。	「子育て情報マップ」など、利用者ニーズに対応し、利用者目線に立った操作性の高い子育て情報を提供するため、情報アクセスを改善
子どもの館・子育て交流プラザの落書き広場のペンが少ない。トイレのサインがわかりにくい。	おもちゃ、施設内のサインの改善

※現在精査中

ニーズ・課題の把握

受け手（市民等）のデータ・声

- ・想定する受け手の規模・今後の推移
- ・利用者の人数推移、属性・利用目的の構成
- ・利用者の声（施設・サービスの改善点等）
など

担い手（市等）のデータ・声

- ・サービス提供実績の推移
- ・施設の老朽化の状況 など
- ・従事する職員・供給事業者等の声
（サービス提供力を高める上での課題等）
など

- ・課題の整理
- ・課題解決に向けた仮説
- ・今後の分析の深掘り など

改善・分析の実行（創る改革）

Aレベルの課題

現行業務を前提とした業務改善
↓
各部局において、個々に改善実行へ
※内容に応じ、局区共同で実施

B・Cレベルの課題・仮説

サービス提供主体・提供水準のあり方
施設運営形態・施設そのもののあり方
これまでのルールや制度枠組みの変更
↓
経営分析で仮説を検証（他都市比較等）
※分析のまとめり・体制は検討の状況に応じ調整

1 保育人材の今後の見通しや人材の活用策の検討

課題の整理

〔現状〕

- 保育施設が希望する保育士等の確保が困難

〔短・中期〕

- 保育ニーズの増加（こども誰でも通園制度等）への対応
- 外国籍家庭や医療的ケア児など、支援ニーズに応じた人員体制等

〔中・長期〕

- 子どもの数の減少も踏まえた、必要となる保育人材の数

課題解決に向けた仮説

保育人材の確保等

- 働き方の改善に向けた取組の検討
- 新たな保育補助人材等も念頭に置いた、保育サービスの提供の検討

2 子育て相談の体制の再編

課題の整理

- 「どこに相談したらよいかわからない」「子育ての不安や悩みは増」
- 一方で相談窓口によっては、利用者は減少傾向



適切な相談窓口にアクセスできていない
相談者のニーズと提供体制（機能、相談方法など）のミスマッチ

課題解決に向けた仮説

相談体制やツールの見直し

- 相談の程度や内容によった相談体制の再編（専門性の必要の有無）
- デジタルの活用を含め、子育て世代に合った相談の在り方を検討（対面よりもSNSの方が気軽に相談できるなど）

1 直営保育所の機能と役割の整理、必要量の検討

課題の整理

- 施設の老朽化に伴う対応の必要性
- こどもの減少に伴う保育必要量の減への対応
- 医療的ケア児など専門的な対応等を伴う新たな保育ニーズへの対応

課題解決に向けた仮説

機能強化

- 民間では対応困難な保育ニーズへの対応

適正配置

- 直営として求められる機能（福祉的なセーフティネット）の確保・充実
⇒保育資源の集約・再編

2 児童館の今後のあり方の検討

課題の整理

- 施設の老朽化に伴う対応の必要性
- 児童館の利用者の減
- 放課後児童クラブの学校施設内の運営を望む市民の声
- 2 中学校区に 1 施設のため、エリアの全域をカバーできていない

課題解決に向けた仮説

児童館の機能移管の検討

- 放課後児童クラブ → 小学校の余裕教室に段階的に移管
- こどもの居場所 → 子どもや子育て世代と地域がつながる
ことを主眼に、市民センターなどへ移管

老朽化への対応や別の用途としての活用方法も検討

3 青少年施設の今後のあり方の検討

課題の整理

- 施設の老朽化に伴う、大規模改修、建替、廃止の検討
- 学校行事の見直し等に伴う利用者生徒の減少
- 全国的に青少年教育施設は減少傾向
- 中高生などからの新たなニーズ
→「自習の場、友人と気軽に集える場が欲しい」

課題解決に向けた仮説

類似施設を含めた統合・整理の検討

- 未就学児を対象にした宿泊型施設「緑地保育センター」など同様の設置目的の施設とともに今後の方向を検討
⇒施設の統合による機能の強化を図った建替えの検討など

こどものニーズに応えるこどもの居場所づくりの整理・検討

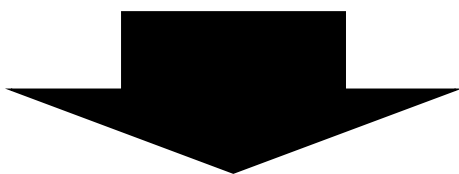
- 宿泊型施設から、気軽に立ち寄れる居場所の提供へ

利用者(予定者を含む)や保育現場へのアンケート／ヒアリングの実施

- ・入園時
- ・送迎・登降園時
- ・食事
- ・遊び
- ・その他



- ・ 助かったことは何ですか？
- ・ 困ったことは何ですか？
- ・ あればよいものは何ですか？



利用者目線でさらなる課題抽出と対応を検討（Aレベル）

今後の分析の深掘り〔② 子どもの居場所づくり〕

未来のために、
今、ととのえよう。

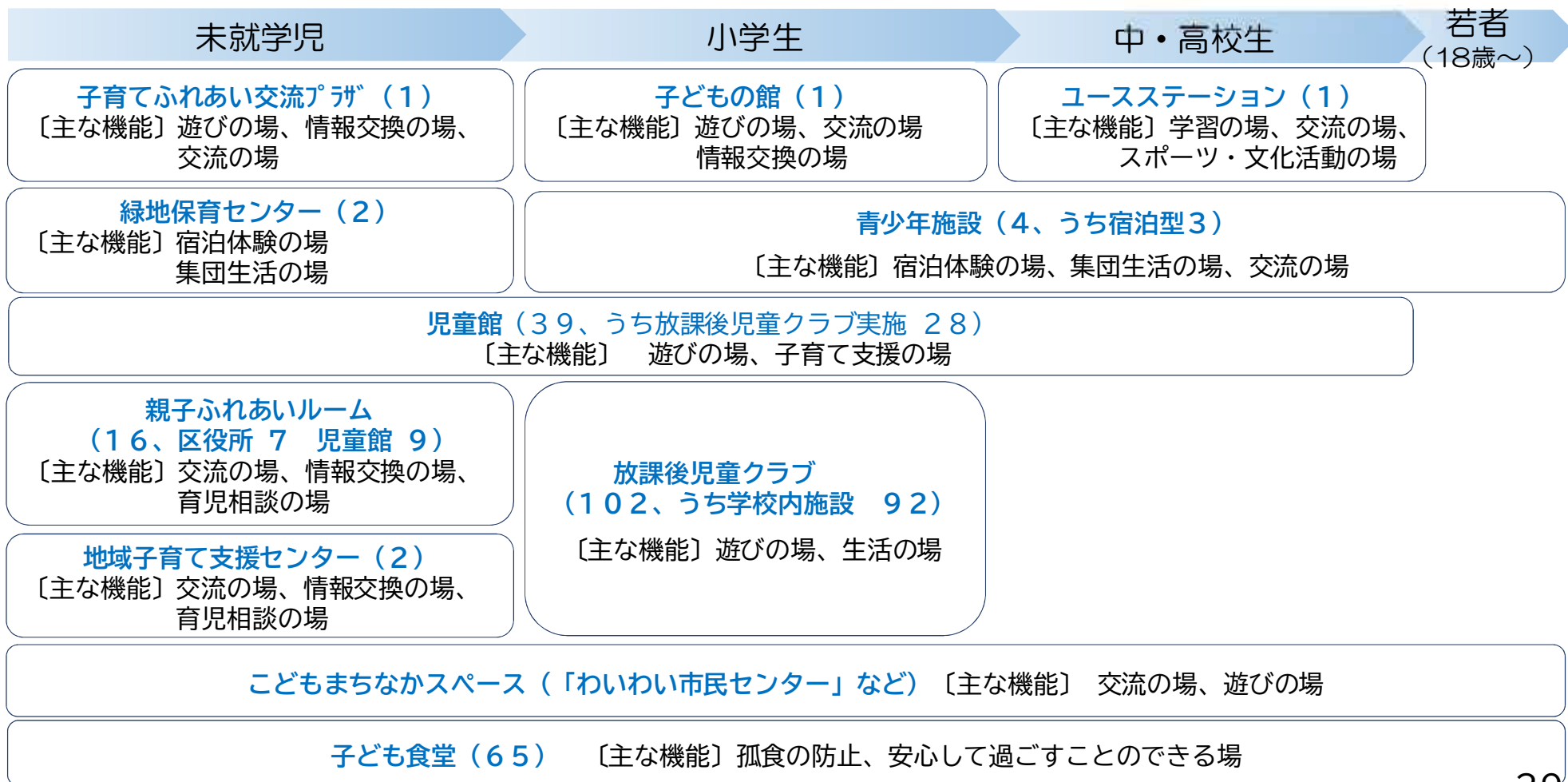


☑ 主な子育て支援施設・青少年施設（事業）の体系的な整理

(R6.4.1時点)

市
レベル

区・地域
レベル



- ✓ 利用者アンケート等のさらなる分析
 - ✓ 学校関係者へのヒアリング
 - ✓ 管理運営体制、窓口、組織体制等に関する他都市調査
- ⇒子どもの居場所の体系の整理、今後のあり方を検討